

第 1 章 地域公共交通の現状（要旨）

・地域構造

1．蒲郡市の人口構造の推移

蒲郡市の人口構造は、昭和 60 年をピークに減少傾向にあったものの、平成 17 年度、平成 22 年度では増加に転じている。年齢構成をみると、年少人口は昭和 50 年から減少、老年人口は昭和 45 年に比べ約 4 倍に増加しており、少子高齢化が進んでいることがわかる。

2．人口分布状況

蒲郡市の人口分布は、鉄道駅および主要幹線道路周辺に人口集積がみられ、特に蒲郡駅周辺の中心市街地および国道 23 号周辺に集中している。年齢階層別の人口分布状況をみると、市中心部への高齢者層の集積が多く見られ、中央本町、宮成町、御幸町、三谷町等に特に高齢者層が集中していることが表れている。

3．人口流動

通勤流動実態は、市内（域内）が最も多く、流出は隣接する近隣の市町への流出が多くを占めている。流入は、豊川市、豊橋市等が多いものの、全体的に流出過多の傾向にある。通学流動実態をみると、市内（域内）が最も多く流出では名古屋市の大学、私立高校へ通学者が多い。また、流入は西三河方面からの流入は通勤に比べ比較的少ない状況にある。

4．PT 調査結果

蒲郡市の発生集中量は、自動車が最も多く、中部・西北部エリアから東北部、西南部、臨海部との間の流動が多く、市内での移動が多く見受けられる。

5．地勢・高低差

蒲郡市は、周囲を 400m 前後の山地に囲まれ、沿岸部からなだらかな斜面を形成していることが特徴的であり、市街化区域は概ね標高 0～50m の範囲に広がっている。

・交通インフラ

鉄道駅から半径 1km およびバス停から半径 300m の範囲の人口集積状況は約 6 万 2 千人であり、総人口約 8 万 2 千人の約 76%を網羅していることがわかる。人口集積地域の中で、宮成町については、一部のエリアがこの公共交通の影響範囲から外れている状況にある。

蒲郡市が補助金を投入している名鉄バス東部の 4 路線について、平成 20 年度以降の利用者数は、年度により増減の変化がある。平成 24 年度は全体として 175,952 人の利用があり、対前年比で 2%の増加している。

・上位計画、関連計画での公共交通の位置づけ

第四次総合計画：「協議会と連携計画の策定」、「公共交通の利用促進」、「交通不便地域の対策」等
都市計画マスタープラン：「高齢者や社会的弱者の利便性向上」、「乗り継ぎ利便性の向上」等
蒲郡市観光ビジョン：域内移動手段・二次交通の充実（域内移動バスや周遊バスの整備）

・目的施設

大規模小売店舗：13 店舗。業務内容はショッピングセンター（3 店舗）、スーパーマーケット（5 店舗）、家電量販店（2 店舗）、ホームセンター（2 店舗）、書店（1 店舗）で構成されている。

教育機関：3 つの公立高校、1 つの大学および全寮制中高一貫校を有する。愛知工科大学へは、蒲郡駅から送迎シャトルバスが運行。その他は、自宅から徒歩もしくは自転車、最寄駅からの徒歩が一般的。

医療機関：市内の病院、診療所、歯科の分布を見ると、多くが市街化区域内に集積している。バス路線との関係を見ると、バス路線から離れた中央本町、宮成町、御幸町および三谷町等に比較的多く分布。

・観光動向

蒲郡市への観光客は、4 つの温泉郷への宿泊客および市内観光施設、観光スポット、イベントへの来訪客で構成される。宿泊について言えば、三谷地区が年間約 32 万 8 千人、西浦地区が約 30 万 6 千人を示している。また、観光施設、観光スポット、イベントへの来訪客は、ラグーナ蒲郡を有する大塚地区が最も多く約 293 万 4 千人、オレンジ・パーク、竹島水族館等の施設を有する蒲郡地区が約 177 万人を示している。